

県立大・連続セミナー

1

情報セキュリティ入門

県立大に新設された情報セキュリティ学科の教員による社会人セミナーのポイントを6回に分けて紹介します。

情報流出や、インターネットバンキングの不正送金など情報に対する事故が身近なものになっていきます。情報セキュリティとは、不要な者に情報を渡さない「機密性」、情報が不正に変更されない「完全性」、そして提供するサービスが問題なく使える「可用性」

情報システム学部
情報セキュリティ学科教授

小松 文子



が維持されること。これらの英語の頭文字を取り、情報セキュリティの「C I A」と呼びます。悪意をもった不正や攻撃を「脅威」、情報システムな

個人も「脅威」対策を

どの不完全な部分を「脆弱性」と言います。情報社会にはコンピュータウイルスをはじめ、さまざまな脅威が潜んでいます。標的型攻撃は、昨年日本年金機構が受けましたが、攻撃対象組織の過半数が中小企業であるという調査があります。また攻撃対象ではないが、情報管理が不十分な企業や組織が踏み台とされ、加害者になるケースがみられます。ほかにパソコンやスマートフォンを使えなくして

人質にとったようにする「ランサムウェア」の被害が増加。攻撃に弱い箇所である「脆弱性」が多く発見された動画再生ソフトもあります。組織内部者のルール違反による情報窃取などの不正も発生しています。多様な機器などがネットにつながるIoTの時代を迎えようとしている中、国や自治体などは社会全体としての取り組みを進めています。個人も情報機器のアップデートを怠らないことや、セキュリティソフトを導入することで自分自身の情報を守ることが肝要です。(随時掲載します)